

**今日のトピック** **ブラジルの金融政策：低インフレで緩和余地拡大（2019年9月）**  
**0.5%利下げで政策金利5.5%、利下げ局面続く**
**ポイント1** **0.5%の利下げ**  
**利下げは市場の予想通り**

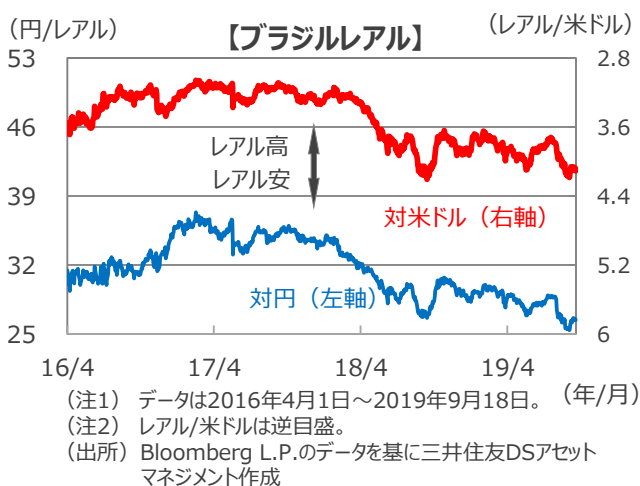
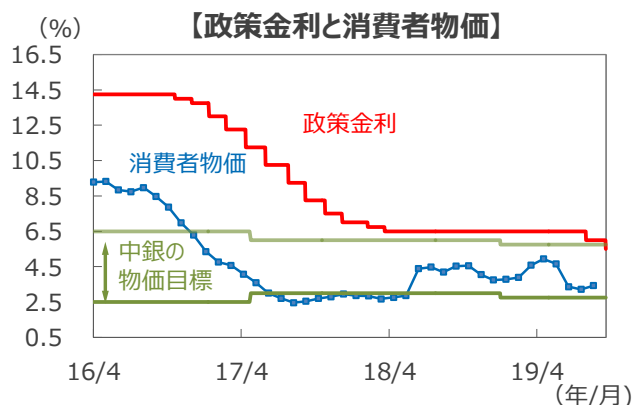
- ブラジル中央銀行（以下、中銀）は、9月18日の金融政策委員会で、政策金利を0.5%引き下げ、過去最低となる5.5%とすることを全会一致で決定しました。利下げは2会合連続となります。

**ポイント2** **政策金利は5.0%へ**  
**低インフレで緩和余地拡大**

- 今回の利下げは、年金改革の進展を背景に利下げを実施した前回7月のガイダンスに沿ったもので、低インフレが続く中、利下げによる景気の下支えが期待されています。
- ブラジルの8月のインフレ率（IPCA）は前年同月比+3.43%と、歴史的に低い水準が続いており、中銀の物価目標レンジの中心を下回っています。そのため、景気刺激策として金融緩和を行う余地が拡大しています。
- 弊社では、ブラジルでは今後も金融緩和局面が続く、2019年年末の政策金利を5.0%と見込んでいます。

**今後の展開** **ブラジルレアルの上値重い**  
**外部環境の不確実性高まる**

- ブラジルレアルについては、利下げ局面に加え、米中貿易摩擦や各国政治動向などの不確実性の高まりを受けて新興国通貨が総じて軟調に推移する中、当面外部環境に左右されやすく上値の重い展開を予想します。
- 10月に予定されるアルゼンチンの大統領選も懸念材料です。アルゼンチンは中国・米国に次ぐ貿易相手国であることからその動向が注目されます。一方で、年金改革法案の審議は順調に進んでおり、10月には成立すると見られます。更に、ボルソナロ政権は税制改革や民営化などの構造改革、経済協力開発機構（OECD）加盟交渉なども進めていることや、依然として相対的に高い金利などがブラジルレアルの下支えになると見られます。

**ここもチェック!** **2019年9月18日** **ブラジルマーケットウィークリー**  
**2019年8月 2日** **ブラジルの金融政策：年金改革進展で追加緩和示唆（2019年7月）**


■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。